

鹿児島市観光未来戦略推進会議 概要 (平成28年度 第3回)

1. 開催日時

平成29年2月7日(火) 15:00~17:00

2. 開催場所

鹿児島市役所 みなと大通り別館6階 会議室

3. 出席者

出席19人、欠席6人

4. 会次第

(1) 開会あいさつ

(2) 事務局説明

① 第3期観光未来戦略(素案)に係るパブリックコメント手続きの実施結果

② 観光未来戦略(案)の修正箇所一覧

③ 観光未来戦略(案)概要版

④ 観光未来戦略(案)本編

(3) 協議・意見交換

① 観光未来戦略(案)について

② その他の観光施策全般について

5. 協議事項の概要

○会長

・パブリックコメント手続きを経た後の第3期観光未来戦略(案)について、ご意見があればどうぞ。

○委員

・戦略の中にも書いてあるように、「西郷どん」でストーリー性を持たせて、奄美などの離島と連携を図っていくべきだと思う。奄美などではホテルが不足しているとの話も聞くので、そのあたりへの対応も必要なのではないか。

○事務局

・離島も含めた積極的な連携を図ってまいりたい。

○委員

- ・交通の利便性を高めてほしい。特に鹿児島中央駅のバスターミナルなど。

○事務局

- ・バス停の配置、標記については今後が分かりやすくなるよう努めてまいりたい。

○会長

- ・篤姫のときは臨時の案内所を設置したのではなかったか。

○事務局

- ・緑化フェアの際に設置した。

○会長

- ・市内部、民間事業者等含めて、お互い観光客のために一緒に取組を進めていただきたい。

○委員

- ・維新ふるさと博は、平日はほとんど人がいないのが現状である。2週間もの間開催せずとも、土日だけの開催などにしても良いのではないか。

○事務局

- ・より充実させる必要性は感じている。開催期間も含めて今後検討してまいりたい。

○委員

- ・明治維新150周年や大河ドラマとの連携は、単年度の取組ではなく、継続的にフォローアップできるように重点施策③にも盛り込むべきではないか。
また、重点施策④「陸・海・空」の窓口を活用した広域連携について、「県や関係機関」の中に、他のエリアも含めるような表現をすべきではないか。
今後はクルーズ船が鍵になると思う。

○会長

- ・表現については今後事務局で検討していただきたい。「関係機関を明確にしてはどうか」とのご意見と思われるので、検討させていただきたい。

○委員

- ・外国人に対して強く鹿児島を印象付ける戦略がまだまだなのではないか。東京の「GO 東京」という観光ウェブサイトのように、鹿児島市から自ら情報発信するという姿勢はないのか。

○事務局

- ・JNTOのHPで27年度に鹿児島の魅力発信を行った。今後も機会を捉えて取組んでまいりたい。

○会長

- ・思いつくものを実施するより、戦略的に取組んでいくべき。言葉として未来戦略の中に盛り込んでよいのではないか。

○委員

- ・金沢に行ったときに感じたことだが、新幹線が開通したことで、バブルな雰囲気があった。しかし、メインストリートは同じような店ばかりが並んでいた。現地の方に聞いた話によると、同じ金沢にも「勝ち組」と「負け組」がいるそうで。「勝ち組」は、「金沢21世紀美術館」のように、常に新しいものを取り入れてるところで、「負け組」はずっと同じものばかりを取り扱っているところだそう。外国人を呼びたいのなら、右に倣えではなく、福岡やミニ東京を目指すのではなく、鹿児島「ならでは」のものを発信すべきだと思う。鹿児島には桜島など。もともと財産はあるのだから、もっと生かしていくべき。うまくまちづくりをしていかないと、飽きられてしまうのではないか。実際、金沢には、アメリカやヨーロッパからの観光客は少ないそうで、その理由は「小京都だから」だそう。金沢に行くなら京都に行く人が多いそうだ。鹿児島はもっと鹿児島の個性を生かしていくべき。

○会長

- ・観光の基本は伝統に裏付けられた地域性だと思うが、市としてはどのように考えているか。

○事務局

- ・パリ万博から150年を迎えるということで、さつま焼き、温州みかんなど「さつま」ならではのものという視点でご意見を生かしてまいりたい。

○委員

- ・大型のホテルは確かに必要だが、建物は街の印象を決める。鹿児島は都会でも空が見える点が魅力という都会の方々からの意見があるので、そういった点も大事にしてまちづくりを進めていただきたい。

○会長

- ・民間に対していかに方針を示すことができるか市として考えていただきたい。

○委員

- ・台湾では「西郷どん」が受け入れられると思うが、その他の地域では受け入れられるかどうか疑問である。MICE や教育旅行は誘致するばかりではなく、双方向の取組を行っていただきたい。ちなみに、中国では西郷さんより京セラの稲盛先生の方が人気がある。その点を生かして、社員の教育旅行を呼んではどうか。

以上

